

「石井さんは、どんなふうに星を生活に取り入れていますか？」

「やっぱり『星占いの風景』のすべなとかを決めて本を読むだけで、」すこし違って見えてくるはずです。

私は星占いを書く仕事をなて気楽のでべとばをばこう聞かれまほ。そばと思えまほ。期待に応えられなくて申し訳ないなと思いつつも、こう答えます。

「いえ、星占いは、自分の生活ではぜんぜん気にしていません」

星を読んで良い時間を選んで打合せの日を決めるとか、メ切を決めるとか、今年の星の動きに合った仕事を企画するとか、そういうことはひとつもやったことがないのです。

こんなことで、星占いの記事を書いていて、本当にいいのかしら、と思うこともあります。

ですが最近、ふと疑念が浮かびました。

私は本当に、星を気にしていないのかな、と。

あらためてそう考えたら、気がつきました。

星は、私の意識のなかに日々、ちゃんとあったのです。

ですがそれは、「今日はケガをしやすいから、気をつけよう」「今

